**Ⅱ　研究の内容**

**第２学年　道徳学習指導案**

日時　平成29年9月20日（水）第5校時

対象　第2学年2組

指導者

**１　主題名**　「こまっている友達にたいして」　B-(６)親切・思いやり

**２　資料名**　「はんぶんでいいよ」〈日本標準　みんなでかんがえるどうとくより〉

**３　主題設定の理由**

　（１）ねらいとする価値

　　　こまっている人に対して助けてあげようとする思いやりの気持ちは、普段からその人との信頼関係がないとなかなか実行することができない。そのため、普段の学級の中で児童が自分の良さを見つけたり、児童同士で互いの良さを見つけ合い、認め合ったりできるような信頼関係ができていることが大切である。お互いの過ちを許し合い、失敗した人の気持ちや困っている人の気持ちを、相手の立場になって考えることができるような心情を育てたい。

　（２）資料について

　　　給食の配膳を早くしようとするあまり、おかずをこぼしてしまった二人の児童に対して学級の他の児童は非難の言葉を言ってしまう。しかし、おかずをこぼしてしまった理由を相手の立場に立ってこの後どうするべきか考えることにより、思いやりの言葉をかけるようになり、二人も学級のみんなから優しい気持ちを感じ取っていくという話である。

　　　今回は、こぼしてしまった二人に対しての素直な児童の気持ちを大切し、おかずをこぼした二人と学級のみんなの心の変化をおっていく中で、友達と支え合って生活していこうとする態度を育てていきたい。

**４　児童の実態**

　実態調査結果から（平成29年6月　実態調査　学年88名）

・「道徳の時間をすきですか」の問いに対し、９割の児童が道徳の時間を「とてもすき」「すき」と回答しており、ほとんどの児童が道徳の時間を好きだということがわかった。また、

「道徳に時間に自分のことや友達のことを考えたりふりかえったりしていますか」の問いに対しては約３割の児童が「あまりしていない」「していない」と回答しており、内容を自分へと反映することができていない児童も多くいることが分かった。さらに、「友達や先生の話」に関しては「聞くこと」に比べ、「話すこと」を苦手とする児童が多く、自己表現に課題が見られる。

**５　研究主題との関連**

研究主題

外国語活動におけるコミュニケーション能力の育成

～他教科との関連を図りながら～

めざす児童像

相手の気持ちを知り、やさしい心で接することのできる子

（１）資料提示の工夫

　　　児童の理解の手助けとなるよう、紙芝居にして読む。

（２）発問の工夫

　　　児童の心を動かし、多様な考えを引き出す発問の工夫をすることで児童のコミュニケーションを円滑にする。

（３）表現活動の工夫

　　　発表するだけでなく、ペアや小グループ伝え合いをしたり、動作や表情などで自分の考えを表現したりすることで、実感的な理解につなげていく。

（４）道徳的価値を高める取り組み

　　　道徳の時間の指導の効果を高めるために、他教科等との関連を図る。

　　①英語活動

　　　視覚的なものを提示したり、ゲームやチャンツを取り入れたりして身近な人と楽しみながらコミュニケーションを図ることができるようにする。

　　②生活科

　　　4月学校探検、10月どんぐり拾い、1月手作りおもちゃで遊ぼう等、1年生とのふれあいの機会を多く設けることで、下級生へのやさしい気持ちを育てる。

③特別活動

特別活動の時間などを利用して、コミュニケーションゲーム（グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング等）に取り組み、友達との関わり方等を学ぶ。

　　④帰りの会

　　　キラキラタイム（自分が楽しかったこと）、ほめほめタイム（相手のがんばりやしてもらってうれしかったこと）を設けることによって、自己肯定感を高めたり、他者理解を深めたりできるようにする。

**６　本時の学習**

ねらい

・失敗して困っている人に対して、手を差し伸べて自分に出来ることをしてあげようとする心情を育てる。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | ○学習活動　・児童の反応　◎主発問 | ◇指導上の留意点 |
| 導　入　(８分) | １　ペアの友達のいいところを発表しあう。○お友達のいいところ、素敵だなと思うところを伝えましょう。２　大好きな給食について話す。 | ◇相手のいいところを認め、声に出して伝えることでこころの準備運動を行う。◇本学習への意欲を高める。 |
| 展　開　(３２分) | ３　「はんぶんでいいよ」を読んで、話し合う。○大好きなおかずがこぼれているのを見て、周りのみんなはどんなことを思いますか。言いますか。・あーあ。やっちゃった。・いけないんだー○みんなから責められてしまった二人はどんなことを思ったのでしょう。実際に言われた人の気持ちになってみましょう。・わざとじゃないのに。・だったら手伝ってくれればいいのに。○こぼしてしまった二人は学級のみんなからあたたかい言葉をかけてもらえてどんなことを思ったでしょう。◎自分だったら、どんな言葉をかけたいですか。 | ◇資料は教師の紙芝居による範読。発問に合わせて区切りながら範読後、場面絵を使って内容の確認をすることでこぼれた時の残念さであったり、悲しみであったりといった素直な気持ちを引き出していく。また、言われたしまった二人の立場を考えられるように教師が実際に児童から出た言葉を台詞として言う。◇わざとこぼしたのではないということを押さえ、みんなから責められてしまった二人の立場に立ち、共感させる時間をとる。◇事情を把握したみんなから優しくしてもらえた二人の立場に立ち、共感させる時間をとる。◇伝え合いを通して、自分の気持ちを表現しやすくする。 |
| 終　末　　(５分) | ４　今日の振り返り。○自分のこと○友達のこと | ◇スマイルカードを用いて意思表示の見とりをしやすくする。◇わざとではなく突発的に起こる出来事が身近にたくさんあり、こういうときに相手を快く許し、思いやる行動をとることを共感する時間をとる。 |

〈授業観察の視点〉

・紙芝居を通じて物語の世界に入り込んで考えることができたか。

・伝えあいを通して自分の気持ちを表現しようとしていたか。